

仙台大豆作情報

令和7年度第2号
令和7年6月20日発行
仙台農業改良普及センター
TEL 022-275-8410

★基本技術を確実に実施して
収量 300kg/10a・品質 1 等級を目指しましょう！

◎今回の栽培管理のポイント

① 排水対策 ② 中耕培土 ③ 追肥（培土期） ④ 雑草防除（茎葉処理）

○生育概況

播種作業は5月下旬から6月上旬にかけて行われています。ほ場が乾いていないところでは、播種作業がやや遅れている状況です。

1 排水対策

大豆は湿害に弱い作物です。発芽期までに急激な吸水を受けたり酸欠状態となると出芽が阻害され、発芽しても生育不良株となります。また、湿害により根粒菌の着生が阻害される恐れもあるので、安定した収量を確保するために、排水対策は必ず実施しましょう。

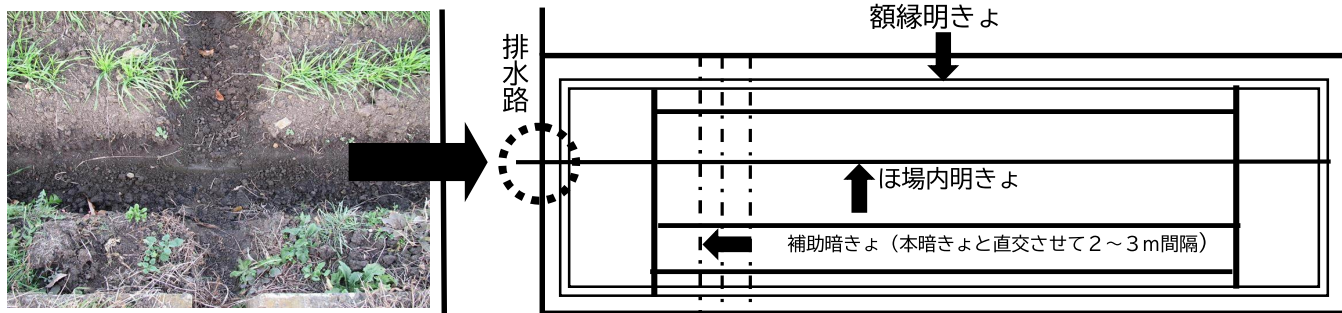
（1）額縁及びほ場内明きよの設置

明きよの幅及び深さは 20～30 c m 程度とし、畦畔に沿って額縁明きよを設けましょう。ほ場内明きよは、水口から水尻まで傾斜がない場合は間隔を 5 m 以内とします。

（2）明きよと排水路の接続

明きよは必ず排水路と接続し、停滞水の排水を促します。これから梅雨の時期に入りますので、降雨後は、ほ場を見回り、明きよの崩れがないか確認しましょう。

★接続部分★



2 中耕培土

中耕培土は下記のとおり多くの効果があります。梅雨の晴れ間をみて、2 回を目安に実施しましょう。

（1）中耕培土の効果

①直接的効果

・不定根による養水分の吸収 ・不定根に着生する根粒の窒素固定

②間接的効果

- ・倒伏防止効果 ・通気性の改善 ・土壌中の水分保持 ・除草効果

(2) 中耕培土の目安

- ・中耕培土の方法（普通播栽培）

○1 回目：大豆本葉 2～3 葉期に子葉節が隠れる高さまで

○2 回目：大豆本葉 6～7 葉期に初生葉が隠れる高さまで

- ・生育が進みすぎてから行くと根や茎、葉が傷ついて生育が停滞することがあります。作業は開花の 10 日前までに終わるようにしましょう。

※「開花期」とは、初めて開花した株が全株数の 40～50%に達した日です。

※開花期の目安 タンレイ：7 月 26 日～31 日頃 ミヤギシロメ：8 月 1 日～5 日頃

- ・作業可能期間を確認し、計画的に適期作業を実施しましょう。

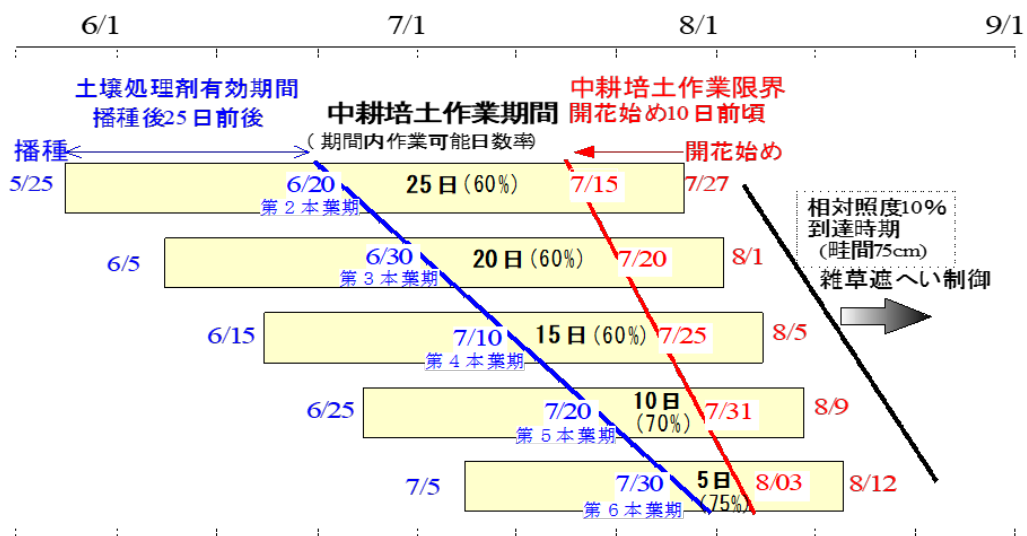
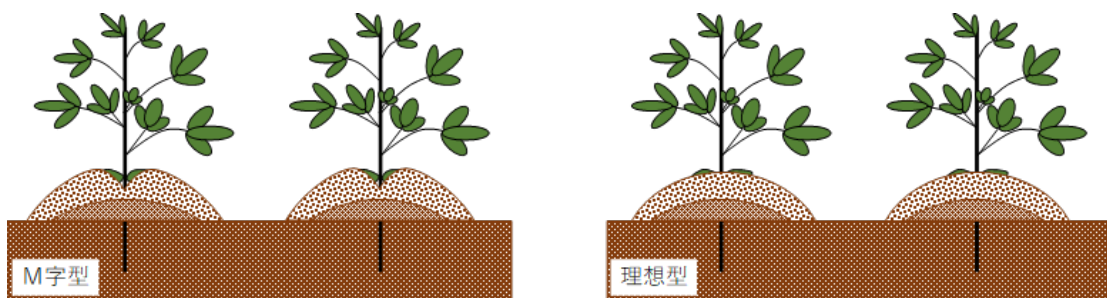


図 中耕培土作業可能期間設定のめやす

(3) 培土の際の注意点

株元に土が寄らないM型培土は、株元に水が貯まり、生育に悪影響を与えます。また、培土の量が多すぎる場合にはコンバイン収穫での口スの増加や汚粒の原因になります。作業機の調整・速度に注意して作業しましょう。



3 追肥（培土期）

大豆の追肥は開花期から子実肥大期にかけて、旺盛な乾物生産が行われる時期に窒素吸収を維持することを目的として行います。最終培土期（普通播栽培で 7 月中旬；本葉 6～7 葉期、晩播栽培で 8 月上旬；本葉 5～6 葉期）に緩効性の被覆窒素肥料を施用します。

また、生育過程で湿害を受けた場合には窒素追肥を行い、硝酸態窒素の吸収・同化を促進することが被害の軽減に有効です。追肥の実施に当たっては、あらかじめほ場の停滞水を排

水し、**硫安などの速効性肥料を窒素成分で3 kg/10a**程度施用しましょう。

4 雑草防除

土壌処理除草剤の効果持続期間は30日程度であり、大豆3葉期頃には効果が低下します。また、中耕培土を行うと土壌処理除草剤の処理層が破壊されます。**後発雑草の優占雑草（広葉雑草かイネ科雑草か）を確認して茎葉処理除草剤を使用**しましょう。

広葉雑草に効果のあるアタックショット乳剤や大豆バサグラン液剤、イネ科雑草対象の茎葉処理剤の**混用は、除草効果の低下や薬害のおそれがあります**。そのため**混用使用は控えてください**。

○各雑草の防除について

・アメリカセンダングサ

大豆バサグラン液剤を使用する場合はアメリカセンダングサの草高20cmまでに散布しましょう。大豆バサグラン液剤は散布後に天候不順が続くと効果の発現に時間がかかる場合があります。天気予報を確認しながら、計画的に散布を行いましょう。

・アレチウリ

大豆の茎葉が条間を覆い、遮光により雑草の発生が減少するまで、手取り除草を徹底します。アタックショット乳剤を使用する場合は3～5葉・つる化前までを目安に散布しましょう。

・イヌホオズキ

中耕培土期は個体が小さいので、中耕培土により防除が期待できます。丁寧な作業を行いましょう。アタックショット乳剤を使用する場合は草高10cmまでを目安に散布しましょう。

・オオイヌタデ

大豆バサグラン液剤の効果が比較的高いです。繁茂すると効果が低下するので、適期に散布しましょう。

※記載した農薬は令和7年6月11日現在のものです。使用する際は農薬ラベルで登録内容を確認してください。

■宮城県農薬危害防止運動実施中（令和7年6月1日から8月31日まで）

宮城県では、6月から8月にかけて農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。

- ・ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認しましょう。
- ・散布後には農薬の使用履歴を記帳しましょう。

■令和7年春の農作業安全確認運動実施中（令和7年3月1日から令和7年6月30日まで）

○重点推進テーマ『学ぼう!正しい安全知識～農業機械作業研修・熱中症対策研修の拡大と充実、未熟練農業者への研修実施～』

乗用型トラクターなどの農業機械の転落や転倒による死亡事故が多く発生しています。事故防止対策や被害軽減対策を徹底しましょう。

【事故防止対策】

- ・ほ場周辺の危険箇所の確認、危険回避行動の実践
- ・危険箇所の改善

【被害軽減対策】

- ・シートベルトとヘルメットの着用を徹底
- ・安全フレーム付きトラクターの利用

次回「仙台大豆作情報第3号」の発行は、8月中旬を予定しています。